

京都市廃棄物減量等推進審議会
第2回協働部会・事業系部会合同部会
議事要旨

日時：平成15年8月8日（金） 午前10時～正午

場所：キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室

出席者：高月事業系部会長，郡嶋協働部会長，河井代理，今井委員，山本代理，
砂田委員，西川（隆）委員，西川（富）委員，細木委員，山内委員，
山川委員，横田委員，門屋代理，北原委員，澤井委員，鈴木委員，高
橋委員，中島委員，丸山代理，松本委員，山本委員

<新基本計画及び数値目標設定について>

4月時点での中間まとめでは「2R型エコタウン」に関する記述があったが，今回，それがなくなり「5E」が突然出てきている。これはどういうことか。

「5E」の エネルギーの部分で省エネ等の物理的なエネルギーと行動力という意味でのエネルギーがまとめて記載されているが，これらはそれぞれ別々に書くべきである。

ごみ量の減少傾向の部分で，平成14年度実績が平成9年度レベルに比べ10%減少しているとあるが，その背景として建築廃棄物の搬入規制に関する記述が必要である。

具体的施策検討に当たっての配慮視点として，3つのことが挙げられているが，それらに加えて，事業者と市民の連携という視点が必要ではないか。

社会情勢の変化への配慮を視点に入れ込んでいるのは評価できる。

参加(participation)とパートナーシップを5Eに加え，「5E+2P」にしてはどうか。それにより，ごみの減量に加え，「市民の参加度」や「連携度」に関する目標が掲げられ，基本計画自体に新たな視点が付加されるのではないか。

<具体的な取組内容について>

上流対策を推進するための施策として，学生の力を活用することも意義があると書かれているが，学生活動に対して報酬を与えることや，活動の場を提供すること，市役所でのインターンシップ制度を導入すること等について検討して欲しい。

環境教育についてだが、家庭での教育という視点が欠けているのではない
か。

厨芥類のバイオガス化や堆肥化、廃食用油のバイオディーゼル燃料化とい
うアイディアは賛成できるが、その前に、発生抑制という視点が必要である。

事業系の缶・びん・ペットボトルは、まだ容器包装リサイクル法の対象に
なっていないのか。生産者の責任を追及していくべき。

ごみの分別指導員の位置付けを明確にするべきである。

環境教育については、PTA の役割をもっと重視して欲しい。

環境教育については、学校と家庭と地域で取り組むという文言を明確に入
れて欲しい。

厨芥類の堆肥化については、受け皿整備や仕組みづくりに関する検討も必
要である。

多くの計画を実行するには多大な人員と費用が必要となる。廃棄物関連の
予算の見直しが必要ではないか。

それぞれの施策について、「検討すべき」とあるが、「実施する」または「何年
までに実施する」というように修正して欲しい。

具体的なリデュースに関する取組をモデル地域で実施してはどうか。

ダンボールに替わる再利用可能なコンテナ(通い箱など)の利用を定着する
ために、流通段階全体に対する支援の拡充を期待する。京都市へ物品を搬入
している他都市も含めた全国的な取組が必要である。

「活用する」や「活性化する」といった書き方が気になる。京都市がもっと積
極的に取り組むという姿勢を反映して欲しい。

減量計画書について触れた箇所に、上流対策の話を盛り込んで欲しい。

目標、数値指標及び具体的な取り組み等の関係が分かりやすい表を追加し
て欲しい。

LCA では、生活スタイルや行動面の影響も考慮するべきである。

学校教育については、リーダーの育成や施設の増強など地域の役割につい
ても明記するべきである。

プラスチックリサイクルのモデル地域の拡大を期待する。

以上